

DRAMA かながわ

《神奈川県演劇連盟》 ★横浜市中区福富町西通り52 TEL045-261-4866



神奈川県演劇連盟第3回合同公演「馬の物言い」

リニューアルの県立青少年センターにて上演

「馬の物言い」の総括にかえて

総合演出 濱田重行

今回の公演を終えて、反省会で口にしたことを踏まえ、紙数に限りもあるので言い尽くせないところもあるかと思われるが、総括を試みる。

①役者の技量は向上したか？——今回の公演でまず目立ったことは、役者として第一である台詞が届かないという問題である。この原因として考えられるのは、日頃演技空間が狭いところで上演している（小劇場公演）が多いために、日常的な物言いが求められ、その要求が身に付いてしまったと言える。声が聞こえても、意識が届いていない。言うなれば「聞かせよう」という気持が見えないから聞こえないという障害が出ているのである。今回のセンターの舞台のように大きな劇場に立つこともなかったのですが仕方がないが、今回の公演を経験として積み重ねることが出来ればと思っている。

②演技創造を発揮できたか？——経験のない齣物であるから、ある程度仕方がないといえば納得が出来るが、客に見せるものなら、その理由は成り立たない。基本的なことを会得するのは当然であって、それが第一にクリアされなければならないはずなのに、そればかりに追われてしまって、本来の演技創造に行き着かなかったというのは、残念であった。その点での先輩役

者たちは、何とか食いついていた。その姿勢を範とされたい。③連盟が制作した作品を、全体のものに出来たか？——かねてより不満に思っていたことだが、合同公演の一回目「孫悟空」に掛けていた意欲や労力は、二回目の「あの空の向こう」では、お目付機関であったし、今回の三回目では、まったくの丸投げのようで、納得がいかない。にも増して、成功の二文字が見えてきた頃から色気を増し、難事業の「世界演劇祭」への、支援が出来るようになってきた状態になると、初めてこちらに顔を向けてきたようで、何とも気色が悪い。2、3回目とも、黒字になったから振り向いたのであろうが、これが赤字だったらと思うとぞっとする。言い換えれば、その恐怖感が、成功と黒字を生み出したのかもしれない。してみると、連盟理事会の眼力はたいしたものである。ギャランティも払わず、演出をお願いした中村さんには、一回目との格段の差をお詫び申し上げたい。そして、それ以外に労力と手持ちのあれこれを提供してくれて、黒字に導いてくれた各劇団の諸氏に感謝したい。連盟が本来持っている力があって、それを引き出し全体の力にするのが連盟体の責務であろう。なのに、そうなりきれていないところは今後の議論を待ちたい。

「元禄・馬の物言い」アンケートから

★ああこれは決して江戸時代のことではない、今のことだと思ひながら、突き付けられる感で見えていました。世の中が求める枠にはまらない女たち、それを支える女たち、よく出来た本だと思いました。ただ、セリフの聞き取りにくいところがかかりあったのと、役者さんのアンサンブルが今一つだったのが残念でした。1幕目は、ちょっと冗長な感じがしました。でも2幕目は、謎ときの面白さもあり、ぐんぐんひきつけられました。お市さん、お千代さん、とてもかっよかったです。今の日本の状況に不安やあせりを感じている身に、「井戸端会議」は力強いエールでした。私たちが闘う方法はこれしかない、というか、そこから出発するのが一番いいのだと思いました。あたり前の今日の続きが、あたり前の明日なら、世の中一等いいのかも……」のセリフは泣きました。ありがとうございました。(女性)



★①歌とおどり 私は不必要ではないかと思う。むしろ芝居の雰囲気、流れを壊していると言えまいか。最近特に合同公演という“楽しさ”を出すために歌とおどりを入れるケースが目立つが、決していい傾向とは思えない。今回もそう感じる。ミュージカル仕立てにするなら、もっとはっきり打ち出さないと中途半端になる。②芝居の長さ できれば1時間半から2時間以内にはできないか。休憩をはさむものの2時間40分は長すぎる。芝居を観た後疲れが残るからだ。しかし、これは個人的希望です。今日のは、長く感じさせませんでした……。③厳しいことを言ったが、面白く、よくできた芝居でした。ありがとうございました。(男性59才)

★歌あり、踊りあり凄！残念なのはちょっと表情が硬いかな…笑える台本なのに、笑っているのかどうか迷ってしまいました。9月10月は話題の「天保12年のシェイクスピア」「吉原御免状」を観てきました。時代劇で春画とか女だてらにとかのところ、もう少し下げたおもしろさが出るのもっとおもしろいと思いますが、プロにも負けないパワーを感じました。横田さんも書かれていたように女性がパワフルなのはいいですね。セットも回り舞台も

音楽も良かったです。休憩10分は短い！移動が皆さん大変そうでした。4回だけの上演はもったいないですね。回数重ねたらきっともっと良くなると思います。(女性40才)

★歌入りのコメディ時代劇ということで気を楽しんで観劇しました。軽快なバックグラウンドミュージックが非常によく、話に乗っていきました。小生、耳が少し遠くなったせいか“セリフ”が今一つ理解できず、特に肝心の女性陣の井戸端会議の中味がわかりませんでした。次回は一番前の方の席を取りたいと思いますが、それにしてもマイクのあり方、きちんと俳優さんのセリフが遠くまで、誰にでも判るように届いているかどうか、ぜひテストをして欲しいと思います。中ばんの決闘の場は、よかったですと思いますが、綱吉の“生類哀れみの令”を中心に絞っていったら新しい展開が期待できるかも知れませんね。皆さん一生懸命の演技で素晴らしい芝居だったと思います。(無記名)

★大作にもかかわらず、内容の良かったし、最後までしっかりと見られました。題材もキャストも素晴らしかったと思います。もっと大勢に、大きなホールで演じて十分な内容だと思います。お市さんは抜群に上手。あとお千代さんのセリフは、声がよくとお聞きやすかったです。内容もキャストも観客を引きつけていたと思います。あまりカタカナ流行語を取り入れなくてもいいと思いました。あつという間に時間が経って、面白かったです。井戸端の女の人たちも生き生きして、早口がけどはっきり発声していたのでよくわかったし、とてもよかったです。(無記名)



おもしろかった～、久しぶりに泣いて笑った。こんなにステキな、演劇人が横浜に集結していたなんて、思いもかけなかった。ぜひ、次回も、観たいものです。(女性57才)

★とにかく大変楽しい観劇をさせていただきました。①後半の盛り上がりがよく、思わず引き込まれて観ました。②ダンスと音楽がとても効果的でした。③お市さんがとても魅力的で

した。やや難聴気味の私は「馬がしゃべった」という肝心な部分が、今ひとつ理解不足でした。犬公方(綱吉)との関係を、パンフレットの片隅に触れていただけたら…と思いましたが、ありがとうございました。(男性64才)



★全体的に懸命に取り組んでいました。特に女優陣が好演だったと思います。色々の劇団から大勢の人が集まってきて、演出はじめ総監督の方達はまとめるのに大変だったでしょう。現在戦後60年で、庶民を苦しめた色々の問題がありますが、次回は創作にてこれらを取り上げてください。社会に訴えていく作品が少ないような気がしますので……。江戸の庶民の生活が生き生きと描き出されておりました。(男性78才)

★ちょっとむずかしかったけど、ギャグもあつたし、楽しかった。表現とか、すごくうまい！と思った。ながや(長屋)ってゆかいでたのしいんだな、ちょっと住んでみたいなあ。(女性12才)

★第2幕目の2回の暗転は少し長いので何か飽きさせないモノが欲しいです。舞台美術はとても素晴らしかったです！上手からも下手からも真ん前からも、どの位置から見ても違う味があり、客を飽きさせませんでした。本当に素晴らしいの一言です。お市さん、凄かったです！滑舌も声の届きもピカ一です。美人でした。全体的に劇がだらだらしていたように思えます。締めるところはしっかり締めた方がより良い劇になると思います。(女性21才)



もう始まっています

横濱世界演劇祭2006

横濱世界演劇祭2006は来年2月12日の幕を開けますが、その公演成功にむけたワークショップが始まっています。横濱世界演劇祭にスコットランドから参加する「コルチャック先生の選択」はスコットランドでは学校の子どもたちにむけて上演され、学校を巡回公演するのだそうです。そして単純に公演するだけでなく、事前にワークショップを行い、作品のテーマについて子どもたちとワークショップで考えあひ深めあって、公演を迎えるのだそうです。

今回はこのスコットランドのシステムを日本の学校や一般参加者を対象にして実際にやってみて、ワークショップがどんな風に受け止められるのか体験してみました。(以下のレポートは高校生の体験を主にしました)

「コルチャック先生」の時代をワークショップで体験



講師はスコットランドのダンディレップシアターという「コルチャック先生の選択」を上演する劇団のアソシエートディレクターをしているスティーブン・スモールさん。

最初のワークショップは平沼高校の生徒を対象に行いました。演劇をやっている演劇部ではなく、普通の生徒たち1クラスを対象にしました。2回目は杉田劇場で、演劇に関わっている人や一般の人を対象に行われました。

このワークショップは演「コルチャック先生の選択」という作品に描かれた、ゲッターの中を体験しつつ権利や生きるということを考えあうワークショップでした。

ワークショップは楽しくなくてとは、ゲームから始まりました。体をほぐし、仲間になるそんな時間を過ごしてからスティーブン・スモールさんは、参加者にゲッターについて話を始めました。

高校生はあまり知られていない話です。

コルチャック先生を知っている？ この物語は実際にあったこと。ワルシャワのゲッターの中で孤児院を営んでいるコルチャック先生と、そこに入ってくるアジオという少年の話で、3人の俳優で演じられるんだ。その他は人形によって演じられる。

そんな話をして、その脚本の最初の部分を子どもたちに読んでもらいました。

物語の冒頭は警官が人参を盗んだアジオをピストルで射殺するところから始まります。それを設定を変えることで物語は別の展開をします。警官とアジオのやりとりにコルチャック先生が加わると、コルチャック先生はアジオを自分が引き取るから助けてほしい、と警官にたばこを勧めます。アジオは助かります。作者は「ほら変わったでしょう」といいます。実際は殺されたかもしれない人物を助けたことでこの物語は進行します。

スティーブン・スモールさんは状況が明らかになったところで

子どもたちに質問をさせます。

- ・警察官はなぜこそを殺したの？
子どもが多すぎるんだよ。食べ物が与えられない。飢えて死ぬより良いだろう。
- ・コルチャック先生はなぜ殺されないのか？
コルチャック先生は有名人だからね。
- ・アジオはなぜニンジン盗んだのか？
腹が減っていたからね。それにドイツ人が嫌いだから。

すると今度は参加者を一列に並べ質問をします。答えは2つに1つを選ぶこと。YESかNO。(以下は高校生の回答)

- ・アジオを殺した警官は良い人か悪い人か？
 - ・アジオにニンジン盗む権利があるか？
 - ・あなたがアジオだったら盗むか？
 - ・アジオを助けたことは良いことか？
- 一般的な価値観とゲッターを理解しきれない段階での認識から生徒達は混乱しているようです。

次にスティーブン・スモールさんは、参加者を二つの組に分け、一組はゲッターのように抑圧された組に、もう一方を抑圧する側にして、行動を起こさせます。(抑圧される側の条件・頭を上げない・膝をついて歩く・目を合わせない・3人以上の集団にならない・反抗してはダメ。もう一方は自由。)

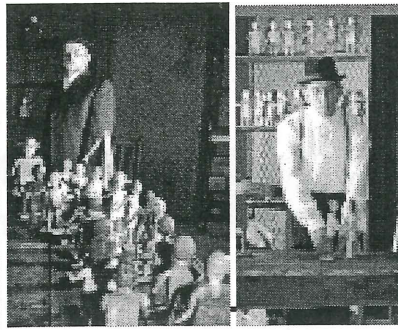
体験を通してゲッターを感じ、権力を感じ、コルチャックの時代を知り、今日の身近な権利、自分の権利を感じていきます。

一番最後に3つの班に分けて、(参加者が)ゲッターにいたとして最後にどういう決断をしてどういう行動に移るかを決めさせ、それを3枚の静止画像にするよう求めます。

演劇初体験の高校生が弾圧されて全滅した場面や、抵抗して生き抜いた場面を創っていてなかなか感動的でした。

こんなふう学んだ「コルチャック先生の選択」という実際のあったドラマを今度は一緒に客席から観てみたいものです。





人形と作るヒューマニズムの舞台

コルチャック先生の選択

スコットランド

英語の言葉で語られる作品です。でも字幕があるから大丈夫。
コルチャック先生はポーランドの教育者で孤児院の院長でしたが、そこでは子どもたちが裁判所を持ち自ら運営していました。個性の強い少年アジオが孤児院に入ってきます。ゲッターがつくられ破壊的な圧力の下で、子どもたちとどう生きるのか。コルチャックは窓の下の人形の兵隊に語りかけます。「兵隊さん。あなたの銃、そしてあなたのゲッター。・・・子どもたちは法廷を尊重していました。しかし今知りたいのは、自分たちがどうなるのかということだけ・・・」

世界から魅力的な作品が集まった



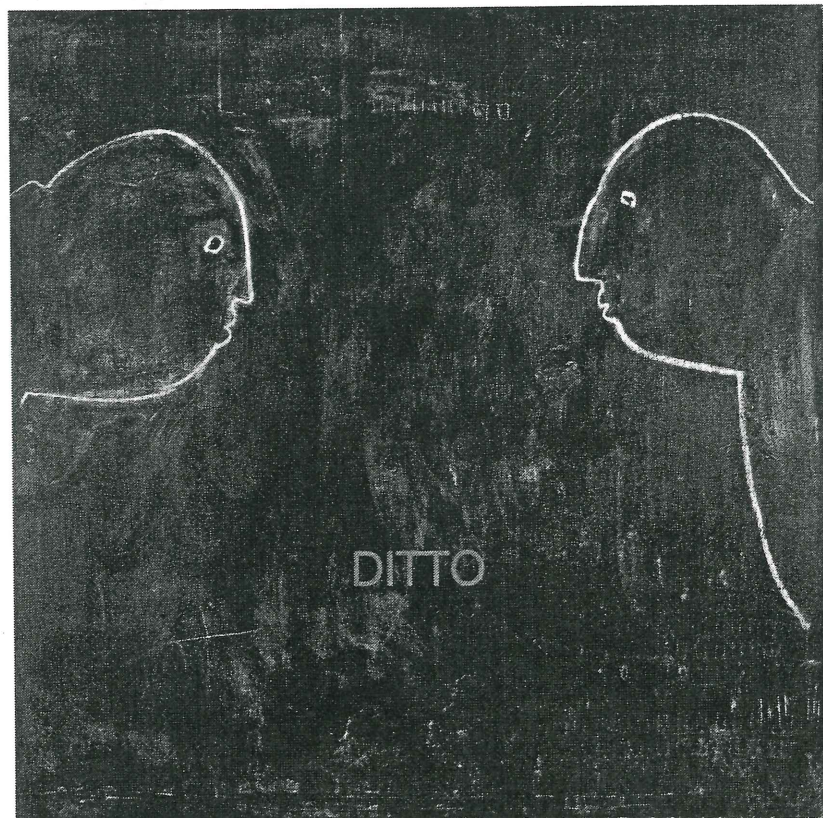
차
내 생애 가장 아름다운 연

汽車

韓国



韓国の劇団超人が演じる「汽車」は、とても心の温くなる作品です。韓国から世界に発信しようと創作された作品で、言葉がありません。何処の国に行っても、誰でもすぐ作品世界にどけ込めます。韓国では大人気で数十日のロングランを行い、それも1日3回公演があったりという人気ぶりです。実行委員会が韓国に観劇に行った日も、午前午後と高校生の集団観劇があり、お芝居を楽しんでいました。もちろん夜は一般の観客でいっぱいでした。



ディットー-Ditto

～であい～

デンマーク

デンマークからやってくる不思議な芝居。この作品も言葉がない。200人以上の会場では上演しないと言う、それこそ爪の先まで神経が行き届いた、綿密な設計図。それでいた自由な創造空間が展開される。これは一度は見たいおすすめ作品。横浜親子劇場が集団観劇をするため販売枚数は少ない。





演劇連盟の取り組みにかかっている

みんなで決めたことをやりきろう

演劇連盟は過去3回の総会で今回の世界演劇祭を位置づけて来ました。

03年度の総会議案書には飯田理事長提案で、経過説明のあと「02年度より連盟の新たな事業として国際大会開催が計画され始め、県連独自の観点から過去にとらわれない新たな国際交流が検討されようとしている。・・・とはいえ合同公演にも増して多大の努力を結集しなければ開催はおぼつかない。何とか加盟劇団の総意で行動に移れることを期待したい。」書かれています。この提案は、提案通りの行動を起こすことを全会一致で承認しました。

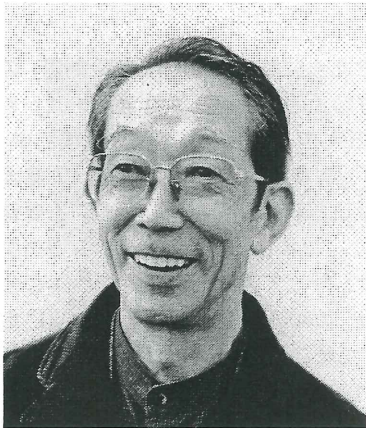
これ以降03年7月14日の理事会で実行委員長・飯田克衛、事務局長・団のぼる、事務局員・山本忠利を決め、同時に全理事が実行委員になることを決めました。又各劇団から1～2名の活動的実行員を出してもらうことを確認しています。

04年度の総会では、テーマを「人々の日常生活の中の質の高い演劇を・観客と共に」というスローガンを掲げ、「これから山のような仕事が待ちかまえています。」が「2006年2月は県演劇連集の年、総意の溢れる企画になるようにご協力下さい。」という活動計画を総意で確認しました。この活動報告の説明で飯田実行委員長は、「連盟加盟劇団員の仕事としてのチケット販売は重要な部分を占めることになる。県演連上げての行動を望む。」と発言し、この意見も全体の総意として承認された。

以上の経過を辿り実行委員会が結成され、文化庁の助成が得られないなどの曲折を経て、今日の段階まで到達しました。

ここまで来た取り組みと企画の内容は、本当に多くの人の援助を得なければ出来ませんでした。神奈川県、横浜市、神奈川芸術文化財団、横浜市芸術文化振興財団、青少年センターなどの協力による公演会場の確保、資金等の助成を得ながら、最後のチケット販売を目標通り達成できれば必ず成功するということまで進んできました。

神奈川県演劇連盟は過去3回の総会で決意したとおり、この最後の課題、観客を集める課題で、それぞれの劇団・個人の力を最大限発揮してチケット販売を行い、「横浜世界演劇祭2006」成功のための行動を起こしましょう。予想通り大変優れた作品が参加した演劇祭になりました。この演劇祭の成功で、横浜の新しい演劇状況を切り開きましょう。



飯田実行委員長

いっぱいのお客さんで迎えたい

1200名の観客を県演劇連盟で

県演劇連盟では10月の合同公演「馬の物言い」で1200名を越える観客に観ていただきました。この公演で集められた観客を最低限にして、世界演劇祭の観客を確保したいと思います。

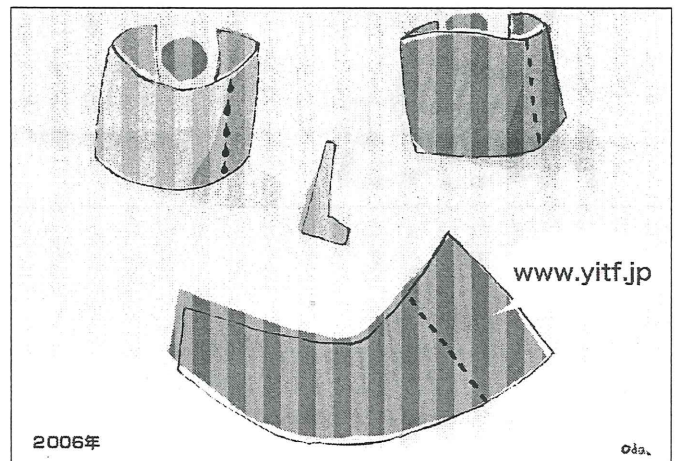
具体的目標として、各劇団の観客数の20%を世界演劇祭の観客としてほしいと思います。この目標はやれたらやりたいという数字ではなく、これだけやらなければ全体として赤字になりかねない最低限の数字です。

そしてその気になって取り組むならば決して難しい数字ではないと思います。

先ず自分と自分の家族など近い人に働きかけてみてください。演劇に携わっている人には「ディッター」は必見です。見終わったあと気持ちが暖かくなるのは韓国の「汽車」でしょうか。感動的なヒューマンイズムの「コルチャック先生」も演劇の力を感じさせてくれる作品です。

日本の作品も忘れずに宣伝してください。3歳以下の子どものための作品、3才からの子どもの作品などさまざまな作品が列んでいます。演劇連盟推薦のこゆるぎ座の公演も応援しましょう。

劇団の観客の20%を目標に



チケット情報

チケットは全指定席（汽車は一部自由席）です。

「ディッター」は横浜親子劇場が団体鑑賞しますので、1日の販売枚数が40枚枚に限られます。（3/3 14:00 は200枚）

チケットの申込み・問い合わせはチケットセンター又は山本まで。

TEL・FAX・Eメール・手紙などで連絡してください。

指定席ですから、チケットを配布できませんが、買い取り又は確実に販売する場合には、事前に渡すこともあります。

地域に密着した活動を続けて60年！

小田原 劇団こゆるぎ座の多彩な活動

こゆるぎ座が誕生したのは、太平洋戦争が終わった1945年の暮れで、1945年12月30日付けの神奈川新聞は「暮れに”小田原演劇研究会”が発足した」と報じている。会の名前は仮称だろうが、連絡場所は箱根清光園・露木方で、翌年1月3日に江木文彦宅で劇団創立の話し合いが行われ、以後60年に及ぶこゆるぎ座の歴史が始まった。

終戦当時、劇作家北條秀司は小田原箱根口の海岸近くに住んでいたが、娘の北條美智留がこゆるぎ座の劇団員であったので、著作権使用料なしで北條作「波止場の風」、「表彰式の前夜」「恋文」「高原日より」などを他の作者の作品と共に上演していた。

今でこそ圧倒的な市民の支援を受けている劇団活動も、当然危機的状況に立たされたこともあり、1954年にはメンバー不足から劇団解散も考えざるを得なかったという。しかし、翌年の児童劇巡回公演などの公演への取り組みから次第に復調し、1952年の第5回公演に続く第6回公演を、5年後の1957年に、創立10周年記念公演として北條秀司「麦踏み」、三好十郎「獅子」で行い、以後1962年に市民会館建設のために従来使用していた中央公民館の取り壊しにより活動を停止したほか、1966年の活動なしの年もあったが、以外は年一回の公演ペースで活動を進めてきた。

この公演のペースは、大作上演によって市民にアツピールするためのものだろう、島崎藤村「夜明け前」、北條秀司「山鳩」、チェーホフ「櫻の園」、ドストエフスキー「罪と罰」、加藤道夫「なよたけ」、久保栄「吉野の盗賊」、北條秀司「丹那隧道」等々を上演した。これらの活動により、市民文化の発展に貢献したとして1977年に”小田原市褒賞”を受賞した。これ以後こゆるぎ座は「よい



子のためのファミリー劇場」の活動をもはじめて、1979年の第27回公演に「アンネの日記」を上演するや、翌年にはこれを横浜戸塚公会堂で戸塚公演として再演した。これがこゆるぎ座初めての横浜公演となる。

1984年、それまでも行ってきた小公演を「第1回実験劇場」の名目で、座付き作者となる五塔倫太郎の「宰相エクピリテス」を上演、この年の第32回公演は五塔作「相州小田原宿筋違橋心中」を上演した。この年、こゆるぎ座は教育文化団体として”安藤為次記念賞”を受賞。さらに翌1985年には”神奈川文化賞”を受賞して、創立40周年に花を添えた。以後、「新人試演会」の機会を設け、本公演との年2回の公演を行ってきたが、1990年からの公演は、主として五塔倫太郎改め、後藤翔如による郷土小田原にまつわる様々な物語の上演が続き、その巧みな劇作と関口秀夫座長とベテランの先導による楽しい芝居創りが、市民の期待に満ちた年間の楽しみの一つとなっている。そのことは、小田原市民会館定員1,098名の大ホールを埋めた満員の観客が交わす会話が、如実に証明している。



芝居も
観る

劇団河童座
『フランダースの犬』
作/ウィーダ 演出/横田和弘
2005年8月12日-14日
横浜相鉄本多劇場



あまりにも有名な話…。私もこれを見て泣いちゃったなあ。

思い返すと、私がテレビを見て生まれて初めて涙した物語でした。いちごアメモも食べたかった～。

さて、今回ファミリーシアターということですが、これは全面的に子どもを対象にした舞台なのかしら……。それとも子どもも大人も楽しめるように両方を対象にしているのかしら……。開演前からキャストが全員揃って舞台に出ていて、観に来た子どもたちと、装置を積み木に見立てて舞台に出てくる風車や教会をつくっている。そしてこの芝居を見る前の心構え「信じること。ここで起きていることを信じること」を話す。

芝居の中でもネロが参加した絵の展示会に実際に見ている子どもの絵を入賞させ、優秀賞として色鉛筆(?)をプレゼントしている。子どもたちの心に残る良い舞台をつくりたいという思いから、子どもたちを飽きさせないように、引き込むように工夫をしたのかなあと思いました、が……。どうなのでしょう。実際の客席は大人も多く、しかも家族連れでない人もかなりいた様に思えました。[たまたま見た回がそうだったのでしょうか] ちょっと子どもに意識が向きすぎるのでは？

まあそれはよいとして、「心に残る」ってそういうアプローチの仕方でのよいのかなあ。芝居を見る前に「信じること」なんて云われてしまったら私はなんだかひいてしまった。観に来てくれた人たちにそういう要求をしてもいいのかなあ…。

私が思う芝居に演る側が観る側をひっぱっていく。いつの間にか舞台の世界に引っぱられていく演る側の真実な心(演技)で…と思う。そういう芝居が心の中に残っていくんだと思う。

みなさん一生懸命演技をしていたと思いますが、なかなか登場人物の深い心情を演技で感じる事ができなかった、わたしには……。

その一つの原因としてパトラッシュを話の進め役として置いていたが、せっかくのネロとおじいさんの心情や生き方をパトラッシュが説明してしまっていたということが挙げられると思う。わたしはストーリーがそのまま舞台の上で流れているように感じられてしまった。どうしてネロがこんな正直に生きているのか。おじいさんとネロの関係とかそれぞれの役の絡みで観ている人が感じ取りたいものなのに、それが物足りなく、とても残念だった。

劇団麦の会 新谷美智子

新生「にゅうくりあ」の誕生

劇団横浜にゅうくりあは、老人ホームの慰問劇から出発しており、劇団員も全員友人や知人だった。全く継続の意志はなかった。それがなんの因果か20年たってしまった。「明日のジョー」が、金竜飛との戦いで「なぜ、俺は立つんだ？いったい何の為に…」とつぶやくが、まさしくどこにあるかわからないゴールを目指して邁進した時期もあった。何が何だかわからないまま、やり続けた。それはたぶん若い人間に許された無駄を楽しむ余裕の産物だったと思う。

創立当初は、時代が変化を求めている。何も変わらない現実のいらだちを舞台にぶつけた。当然、企画は刺激的でエキサイティングな内容が展開されていった。上半身裸体になる女優も、そうは珍しくもなかった。本番終了後には、自宅の蕎麦屋にたむろし、みんなメイクを落とす間もなく、おつまみを作り、受付の精算や釣りを整理し、遠方から訪れた観客のために布団を敷いた。チケットの集計をしながら、店の傍らで、「人は興奮した時に極論に走り、理論も崩れる。そのタイミングは…」などとクールに人の動作を分析したりした。くたくたの日々ではあったが、舞台は全ての疲労を忘れさせてくれた。そこには、非日常を楽しむ自分たちがいた。

時代は移り、だんだん現実が芝居を越えて疾走しだした。そこは混沌としているわりには、行間とか裏の感情とかいうそんな空気を残していない空間だった。ストレートで、日常の延長が存在した。時代に即するように、当劇団のテーマも、アイデンティティの喪失と回復に移っていった。代表の泉谷は、仕事が急速に忙しくなり、芝居の打ち合わせや稽古の時間調整に苦しめられることになる。役割分担を打ち出し、劇団内分業も何度も試みたが、その為の話合いの時間がとれない。組織体制を変えよう…それも根本的に変えなければならない。原点である自主自発的活動を実践するためには、お互いが責任の所在をはっきりさせ、各自の居場所がある集団にならなければならない。丁度20年、劇

団創立以来のメンバーもみんな50歳を越えた。坂下さんの年齢がちょうど泉谷が創立した年齢と重なった。今だ。今がいい。

そんなこんなで、新生にゅうくりあの誕生となり、代表に坂下優一、副代表に大友健太という世代交代が始まった。立場は人を変える。きっと彼らは、また違う自分と会えることだろう。そして、50歳を越えた者たちにも、変わってしまった自分と変わることを固辞する自分とまだ変わりたいと思う自分との出会いのチャンスが与えられる事だろう。若者は未来を開き、年齢を重ねた者は懐古ではなく回顧してみると、違う何かが生まれるかも知れない。昔、醸成されたものが発酵し形や姿を変え誕生する事もあるかもしれない。演劇のもつ可能性を追求し、真摯に立ち向かえば「演劇」はきっと我々に何かを示してくれるはずだ。組織は縮小されたが、そこには「できないからこそ、明日があるんだ」という気概と息吹を感じる。守ることなく、怖れることなく、伸び伸びと。

いずみやひとみ



▲第24回公演「伊勢左木町ブルース」(1998年)より

県立青少年センターに「演劇資料室」が開設されました

今年7月のリニューアルオープンから開設されました。毎週火曜～日曜の9時～17時までです。

今まで横浜演劇研究所が所蔵していた演劇図書、演劇関連雑誌を初めとする貴重な資料が数多く公開されています。この資料室は、センターの委嘱を受けた県演連の仲間たちがボランティアで運営しております。毎月の理事会でお願いしている「演劇資料室ボランティア」はこのためのものです。

ご利用もお待ちしていますが、出来ればボランティアにも参加して欲しいです。資料室には当番のほかに演劇に関する質問や問い合わせに応え、技術や知識の習得にお手伝いをするを掲げております。

照明や音響のこと、装置製作のノウハウから舞台監督、演出の派遣依頼まであるかもしれません。そんなときこそ、経験豊富なみなさんの知識が役立ちます。是非お力を貸してください。

演劇資料室では世界演劇祭のチケットセンターも運営されています。来年2月の開催まで忙しい日々が続くと思われまますので、重ねてボランティアへの参加をお願いします。TEL&FAX045-243-9050です。



第3回神奈川演劇博覧会

今回は横浜世界演劇祭2006の一環として世界の演劇と競演します

06年2月23日(木)・24日(金)・25日(土)・26日(日)

会場・相鉄本多劇場

今回の出演団

郷マイムフランニング
劇団かに座
ウツボ団
パフォーミングアーツ
横浜にゅうくりあ
辻シアター

まりこ☆みゅーじあむ
劇団きさく座
横浜小劇場
移動する羊
すいしん

06年2月23日から第3回神奈川演劇博覧会を行います。演劇博覧会は神奈川県内で活動する劇団に参加していただき、無料で演劇を観ていただくという企画です。横浜舞台芸術活動活性化実行委員会(横浜SAAC)の支援をいただき、神奈川県演劇連盟とタイアップしての企画です。1時間以内の作品を持ち寄り、連続上演するもので、きっと好みにあった新しい劇団を発見することができます。ご期待下さい。

演劇連盟公演予定(11月~2月)

劇団蒼い群	さよならパーティ	11月5日(土) 6日(日)	18:30 横須賀市立青少年会館3Fホール 13:00 横須賀市立青少年会館4Fホール
G/9-Project	風呂場港	11月9日(水)	19:00 相鉄本多劇場
劇団かに座	煙が目にしみる	11月18日(金) 19日(土) 20日(日)	19:00 かなっくホール 14:00・19:00 かなっくホール 14:00 かなっくホール
劇団葡萄座	むかしむかしの…	11月19日(土) 20日(日)	14:00・18:00 杉田劇場 14:00 杉田劇場
劇団河童座	想稿 銀河鉄道の夜	12月10日(土) 11日(日) 12月17日(土) 18日(日)	18:30 横須賀市立青少年会館3Fホール 14:00 横須賀市立青少年会館4Fホール 14:00・18:30 相鉄本多劇場 14:00 相鉄本多劇場
劇団蒼生樹	お気に召すまま?!	12月16日(金) 17日(土) 18日(日)	14:00・19:00 青少年センター2F多目的プラザ 14:00・18:00 青少年センター3F多目的プラザ 11:30・15:00 青少年センター4F多目的プラザ
川崎合同公演 京浜協同劇団 川崎演劇塾	多摩川に虹をかけた男	1月21日(土) 22日(日) 1月28日(土) 2月11日(土)	18:30 すくらむ21(高津区) 14:00 すくらむ22(高津区) 18:30 川崎市教育文化会館(川崎区) 14:00・18:30 麻生市民館(麻生区)

神奈川県演劇連盟連絡先など

神奈川県演劇連盟事務所：横浜市中区福富町西通52 横浜演劇研究所内
県演劇連盟ホームページ：<http://kenenren.web.infoseek.co.jp/2003/>
横浜世界演劇祭ホームページ：<http://www.yitf.jp/>
青少年センター資料室Tel：045-263-4400(演劇資料室呼び出し)

編集後記

発行が1ヶ月遅れてしまった。大きな行事が重なっていて、機関誌の役割は小さくない。紙面を通して神奈川の演劇をかいまいる編集の仕事に関わってくれる人を捜しています。吾こそはと思う人来たれ!